

平成28年3月期(2015年度)
中間期決算 説明資料
＜概要＞

2015年11月13日



みずほフィナンシャルグループ

目次

| | |
|--------------------|------|
| ◆ 収益の状況 | P.2 |
| ◆ 国内貸出金 | P.3 |
| ◆ 海外貸出金 | P.4 |
| ◆ 非金利収支 | P.5 |
| ◆ 財務の健全性(1) | P.6 |
| ◆ 財務の健全性(2) | P.7 |
| ◆ 自己資本 | P.8 |
| ◆ 2015年度計画 | P.9 |
| ◆ (参考)みずほ証券 | P.10 |
| ◆ (参考)中期計画の進捗状況(1) | P.11 |
| ◆ (参考)中期計画の進捗状況(2) | P.12 |
| ◆ (参考)政策保有株式への対応 | P.13 |

- ・ **銀・信** の計数は、みずほ銀行とみずほ信託銀行の2銀行単体の単純合算です。
- ・ **証** の計数は、みずほ証券の連結計数を示しております。
- ・ 2013年度第1四半期までの「銀」(みずほ銀行)の計数は、合併前の旧みずほ銀行、旧みずほコーポレート銀行の単純合算です。

収益の状況

| 連結 (億円) | 2015年度 中間期 | |
|-----------------------|---------------|-------|
| | 前年同期比 | |
| 連結粗利益 | 11,318 | + 647 |
| 連結業務純益 ^{*1} | 4,467 | + 338 |
| 与信関係費用 | 39 | △ 720 |
| 株式等関係損益 | 1,148 | + 794 |
| 経常利益 | 5,745 | + 366 |
| 連結中間純利益 ^{*2} | 3,841 | + 289 |

*1: 連結粗利益－経費(除く臨時処理分)＋持分法による投資損益等連結調整

*2: 親会社株主に帰属する中間純利益

| 銀・信 (億円) | 2015年度 中間期 | |
|-----------------------|---------------|---------------------|
| | 前年同期比 | |
| 業務粗利益 | 8,229 | + 303 |
| 顧客部門 | 6,930 | ^{*3} + 517 |
| 市場部門等 | 1,299 | ^{*3} △ 214 |
| 経費(除く臨時処理分) | △ 4,565 | △ 125 |
| 実質業務純益 | 3,663 | + 177 |
| 与信関係費用 | △ 4 | △ 756 |
| 株式等関係損益 ^{*4} | 996 | + 730 |
| 経常利益 | 4,417 | + 128 |
| 中間純利益 | 3,040 | + 32 |

*3: 前年同期の計数を2015年度管理会計ベースに組み換えて算出

*4: ETF関係損益264億円(前年同期比＋189億円)を含む

■ 連結中間純利益は、前年同期比289億円の増加
年度計画6,300億円に対し、60%の順調な進捗

■ 連結業務純益は、前年同期比338億円の増加
■ 「銀・信」の業務粗利益、「証」の純営業収益は、
前年同期比大幅に増加

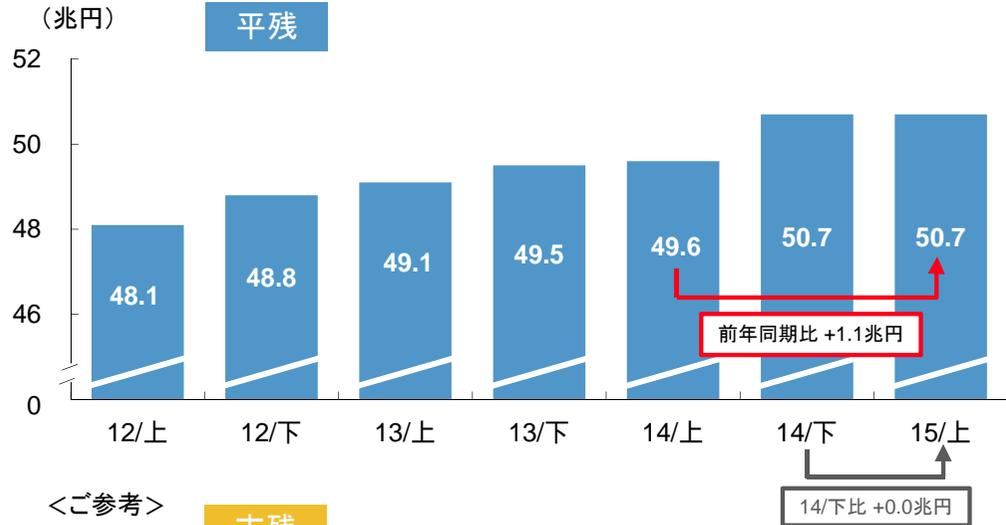
| 証 (億円) | 2015年度 中間期 | |
|-----------------------|---------------|-------|
| | 前年同期比 | |
| 純営業収益 | 2,119 | + 357 |
| 販管費 | △ 1,656 | △ 206 |
| 経常利益 | 473 | + 152 |
| 連結中間純利益 ^{*2} | 387 | + 154 |

連結中間純利益その他連単差

| (億円) | 2015年度 中間期 | |
|--------------|---------------|------|
| | 前年同期比 | |
| みずほ銀行主要海外子会社 | 120 | △ 24 |
| みずほ信用保証 | 131 | + 46 |
| その他子会社及び連結調整 | 163 | + 81 |

国内貸出金残高^{*1} (除く政府等向け貸出)

国内貸出は、政府等向け貸出控除後で
14/上比+1.1兆円、14/下比+0.0兆円



<ご参考>
(兆円)

末残

| 12/9末 | 13/3末 | 13/9末 | 14/3末 | 14/9末 | 15/3末 | 15/9末 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 48.4 | 49.3 | 49.3 | 49.9 | 50.4 | 51.2 | 51.5 |

15/3末比 +0.3兆円

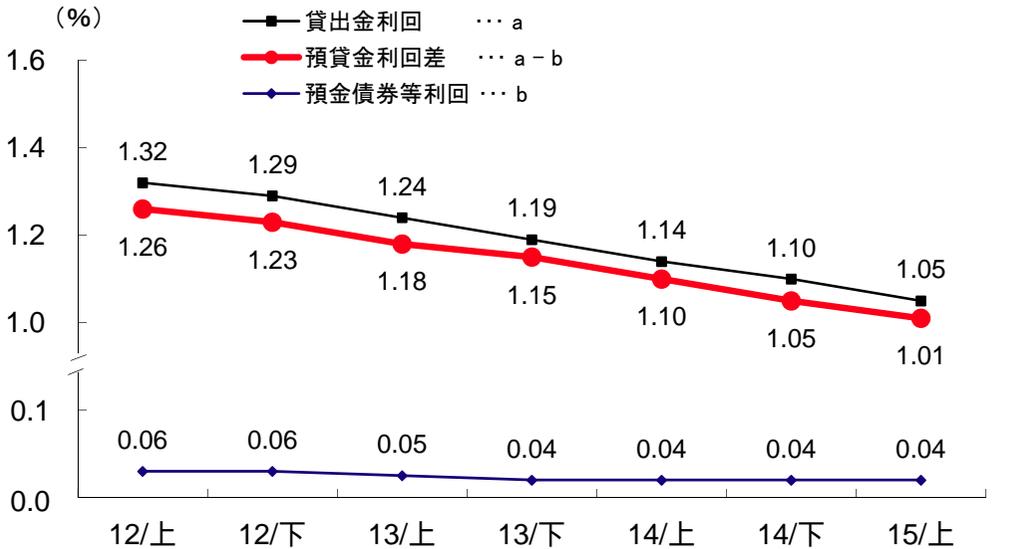
全店貸出金残高^{*1 *2}

(兆円) 平残

| 12/上 | 12/下 | 13/上 | 13/下 | 14/上 | 14/下 | 15/上 |
|------|------|------|------|------|------|------|
| 62.5 | 66.5 | 67.1 | 69.3 | 69.6 | 73.3 | 72.9 |

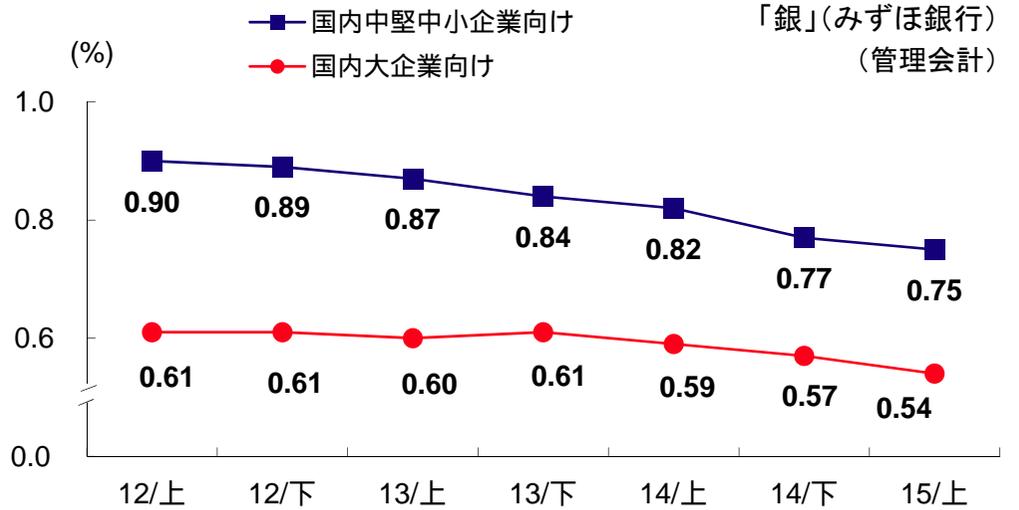
*1: (株)みずほフィナンシャルグループ向け貸出金を除く、銀行勘定
*2: 全店貸出金残高は、国内・国際業務部門貸出金の合算

国内預貸金利回差^{*3}



*3: 金融機関(株)みずほフィナンシャルグループを含む・政府等向け貸出金を除く、国内業務部門

(参考) 貸出スプレッド



海外貸出金

銀

海外貸出金残高^{*1}

■ 海外貸出は、14/上比+219億ドル、
14/下比+118億ドルの増加



<ご参考> 末残

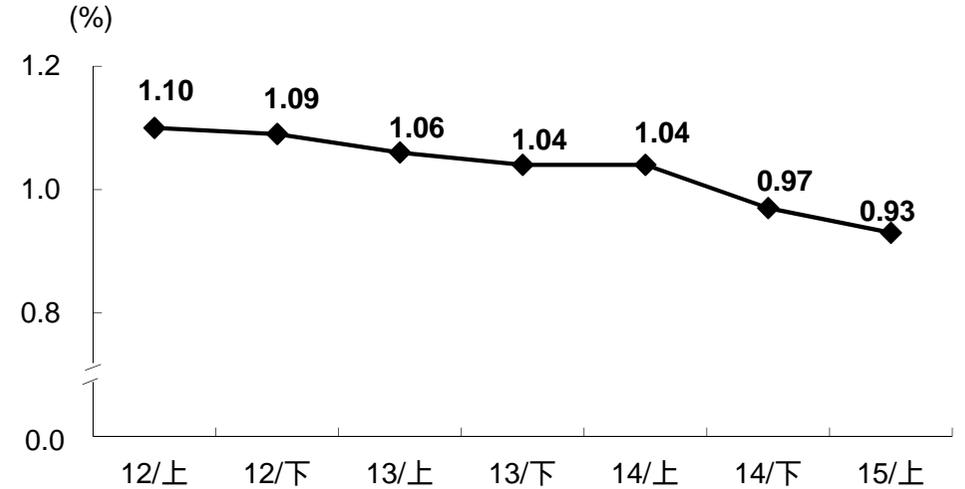
(億ドル)

| 12/9末 | 13/3末 | 13/9末 | 14/3末 | 14/9末 | 15/3末 | 15/9末 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1,389 | 1,448 | 1,521 | 1,595 | 1,629 | 1,820 | 1,875 |

15/3末比 +56億ドル

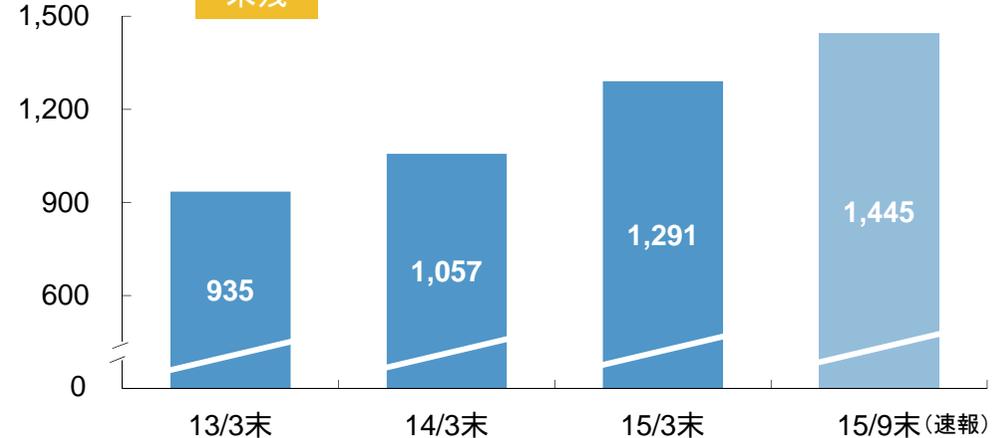
(参考) 貸出スプレッド^{*1}

(管理会計)



(参考) 外貨建て顧客預金残高^{*2}

(億ドル) 末残 (管理会計)



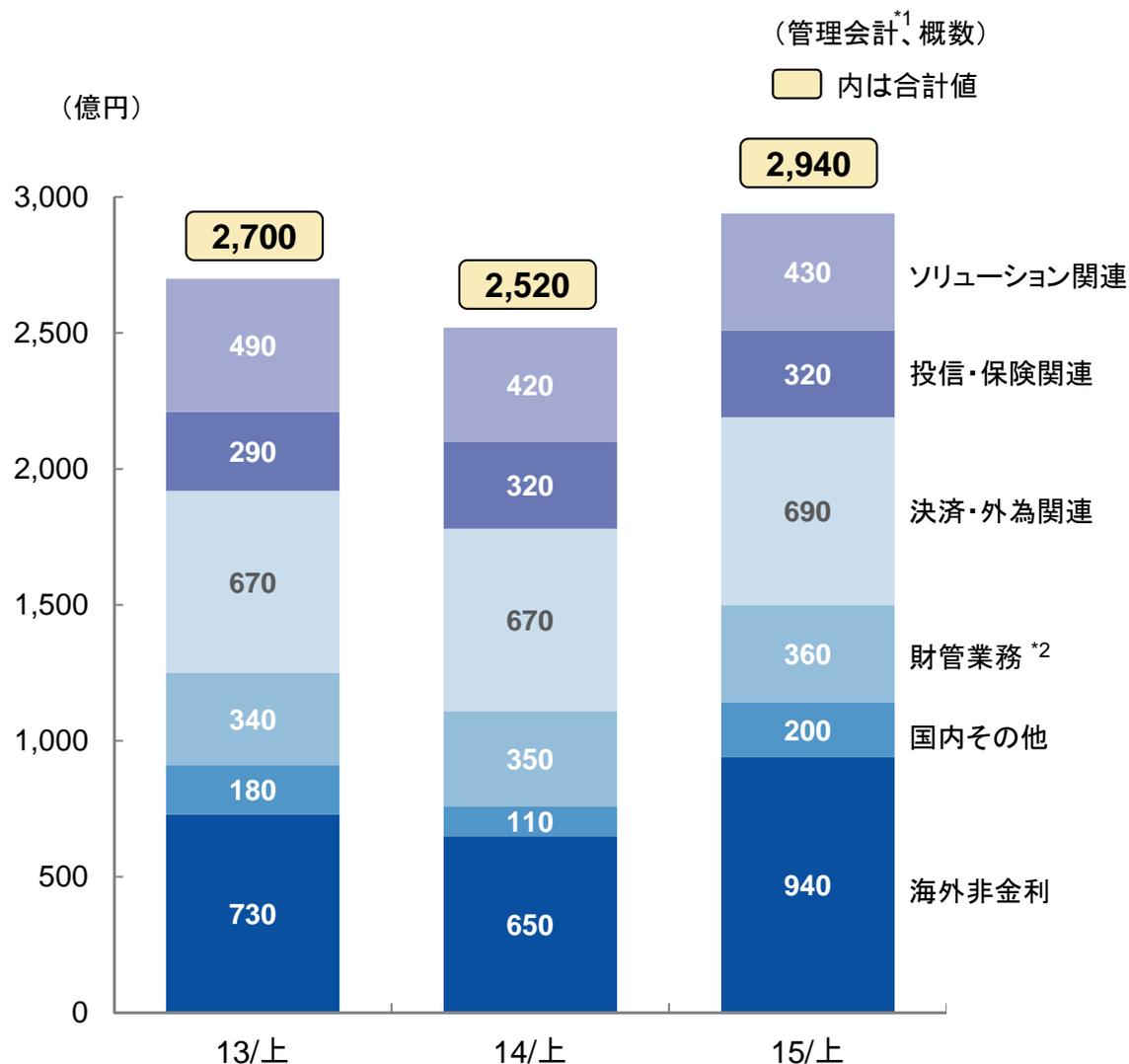
*1: みずほ銀行の管理会計計数(中国・米国・オランダ・インドネシア現地法人を含む)

*2: 国内外貨預金を含む

非金利収支

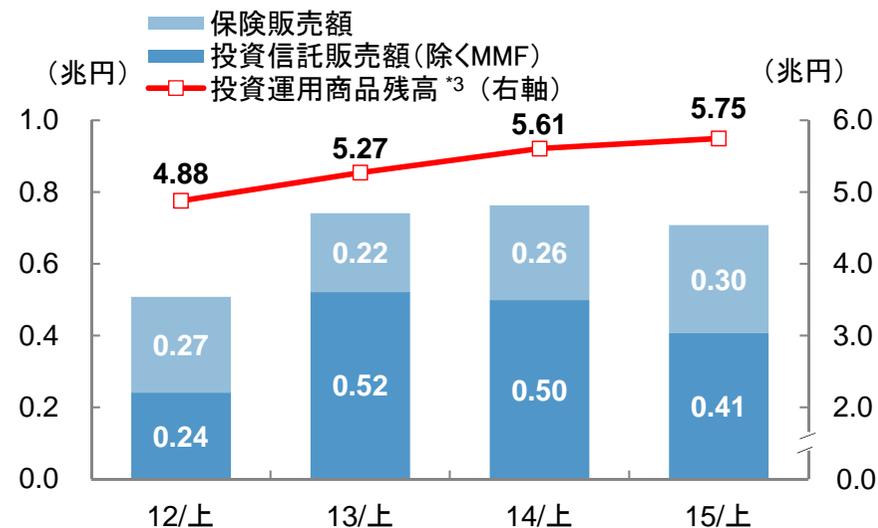
銀・信

非金利収支(顧客部門)



*1: 2015年度に管理会計ルールを変更。13/上期・14/上期実績は変更後の管理会計ルールに基づき算出(旧ルールにおける非金利収支は13/上期:2,740億円、14/上期:2,550億円)
 *2: みずほ信託銀行の財管部門

(参考)投資運用商品



*3: 保険、投資信託(除<MMF)、外貨預金の合計値

(参考)シンジケートローン リーグテーブル^{*4}

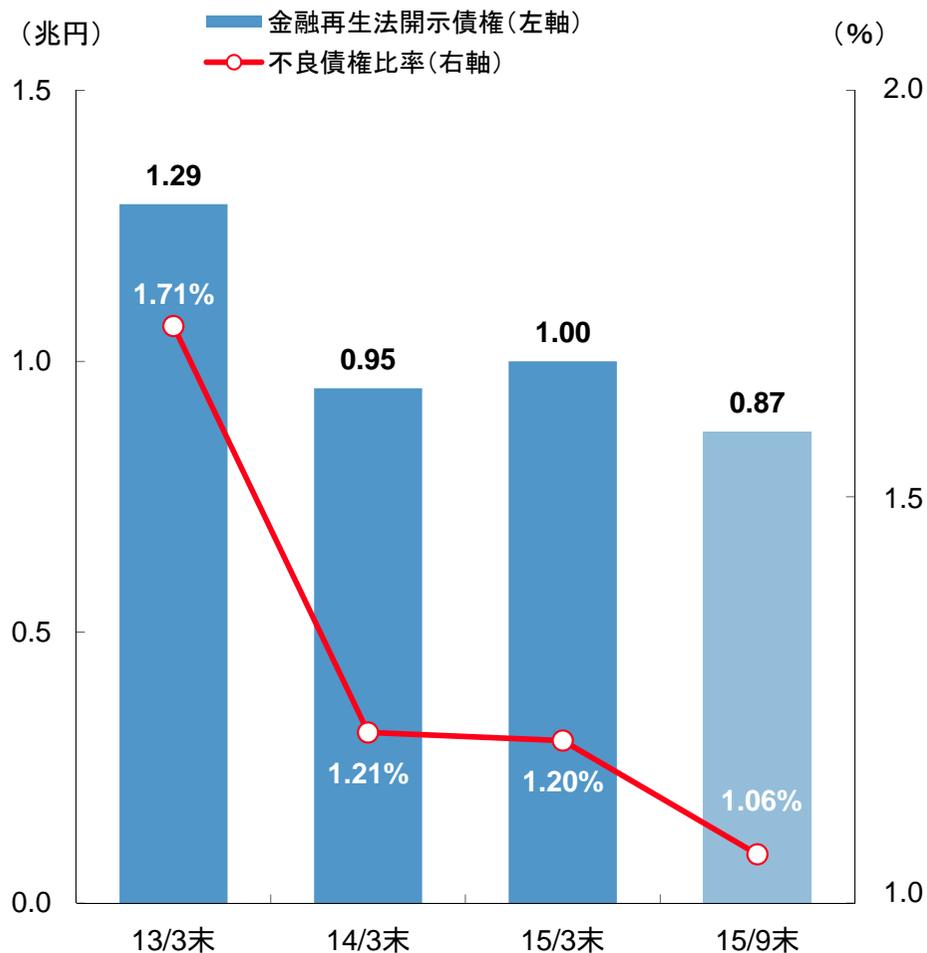


*4: 出所: トムソン・ロイターのデータを基に作成、ブックランナーベース (2015/4-2015/9)
 *5: ファイナンシャルクローズ日ベース
 *6: 主要通貨(USD、EUR、JPY、AUD、HKD、SGD) 建、オセアニアは含まず

財務の健全性(1)

金融再生法開示債権および不良債権比率^{*1}

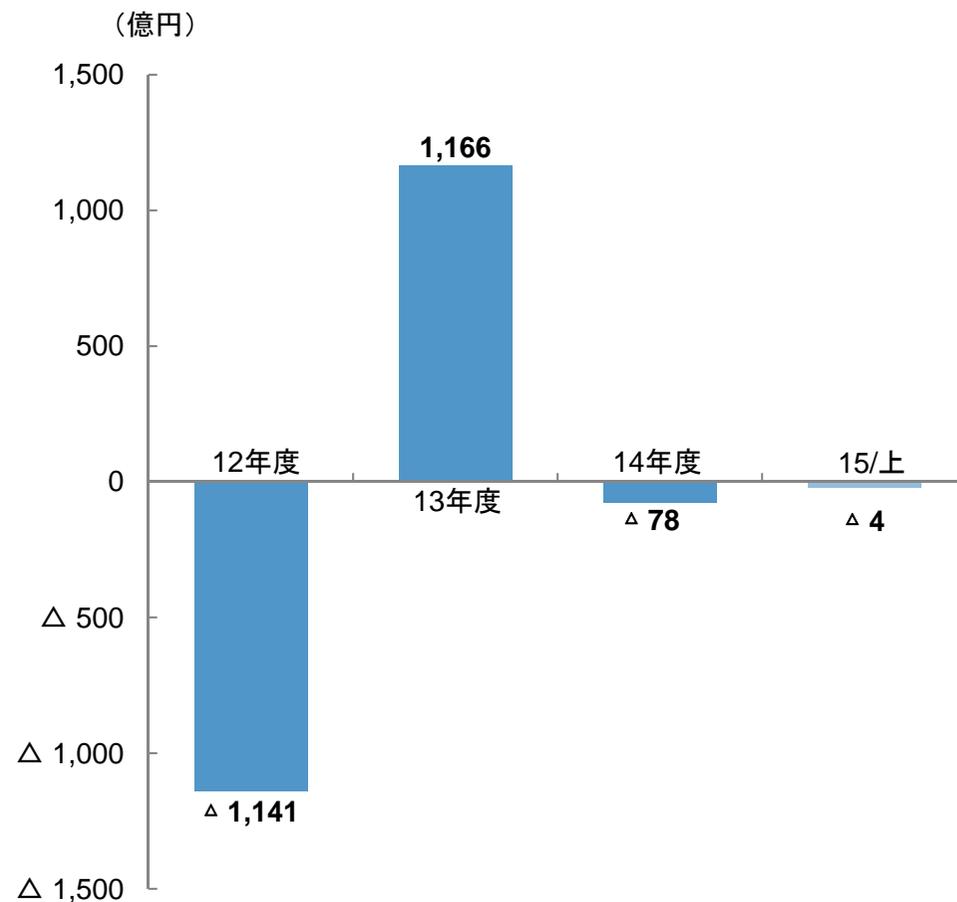
- 金融再生法開示債権残高は15/3末比減少
- 不良債権比率は1.06%に低下



*1: 銀行勘定+信託勘定

与信関係費用^{*1}

- 与信関係費用は4億円を計上



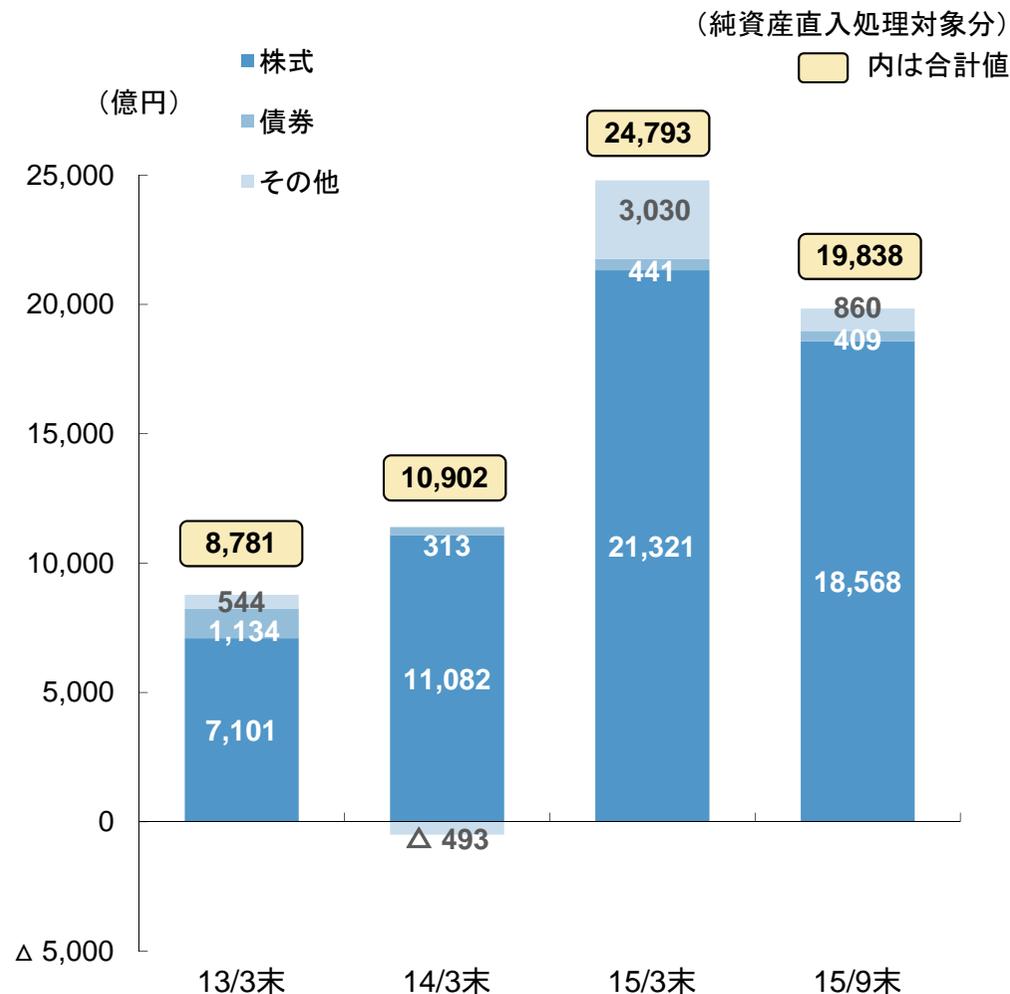
財務の健全性(2)

連結

銀・信

その他有価証券評価差額(連結)^{*1}

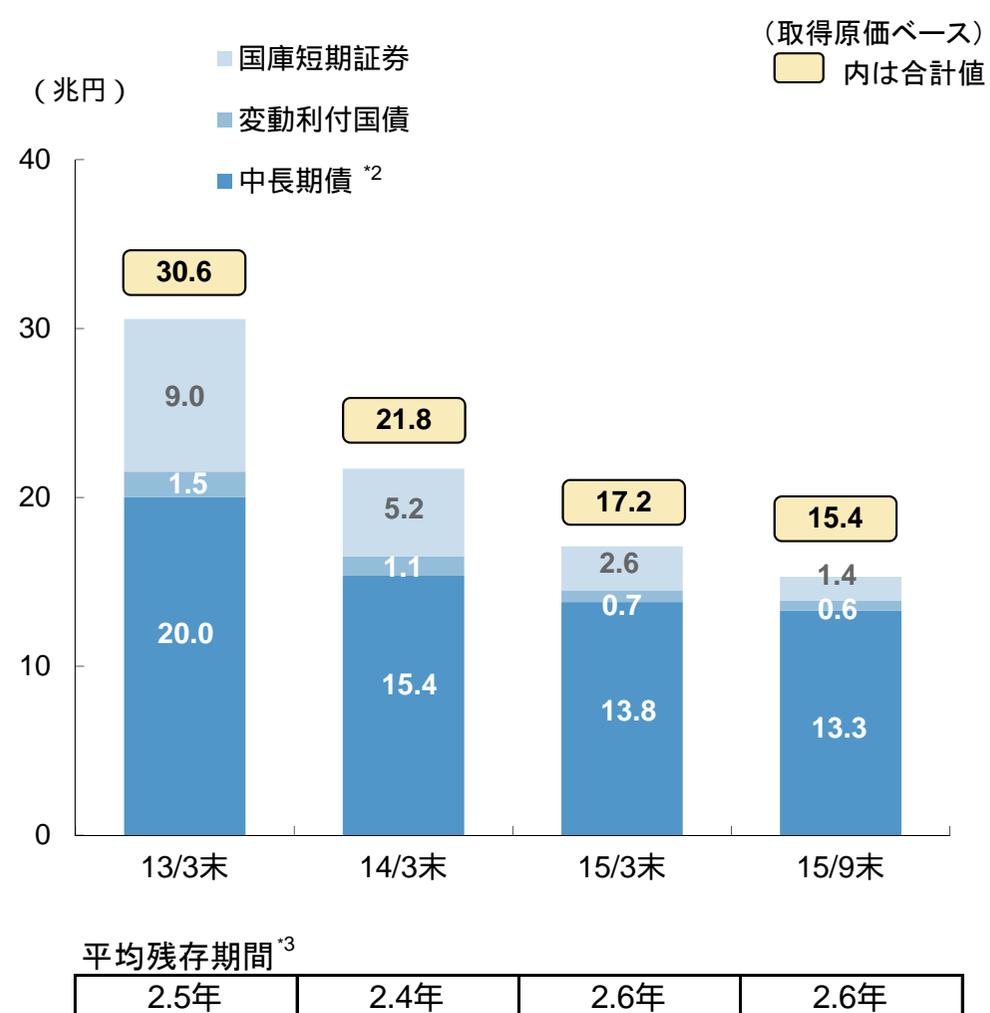
■ その他有価証券評価差額は、15/3末比減少



*1: その他有価証券で時価のあるもの

日本国債残高(銀・信)^{*1}

■ 日本国債残高は、15/3末比減少



*2: 残存期間1年以内のものを含む *3: 除く変動利付国債

自己資本

自己資本の状況

| (億円) | 15年3月末 | 15年9月末 |
|-----------------------------|---------|---------|
| (1) 普通株式等Tier1資本 | 61,531 | 63,388 |
| 資本金・資本剰余金・利益剰余金 | 59,171 | 62,232 |
| (2) その他Tier1資本 | 13,472 | 14,035 |
| その他Tier1資本調達手段 | — | 3,000 |
| 適格旧Tier1資本調達手段 | 14,581 | 11,935 |
| (3) Tier2資本 | 20,081 | 18,537 |
| Tier2資本調達手段 | 3,304 | 3,799 |
| 適格旧Tier2資本調達手段 | 11,088 | 10,318 |
| (4) 総自己資本(1)+(2)+(3) | 95,084 | 95,961 |
| (5) リスク・アセット | 651,919 | 623,092 |
| 信用リスク・アセットの額 | 586,027 | 572,495 |
| マーケット・リスク相当額に係る額 | 34,738 | 19,827 |
| オペレーショナル・リスク相当額に係る額 | 31,153 | 30,769 |
| (6) 総自己資本比率 | 14.58% | 15.40% |
| Tier1比率 | 11.50% | 12.42% |
| 普通株式等Tier1比率 | 9.43% | 10.17% |
| 同(第十一回第十一種優先株式含む*1) | 9.77% | 10.40% |
| 同(完全施行ベース*2・第十一回第十一種優先株式含む) | 10.46% | 10.82% |
| (7) レバレッジ比率 | 3.83% | 3.89% |

<普通株式等Tier1比率>

■ 普通株式等Tier1資本は十分な水準を維持

- 2015年9月末の普通株式等Tier1比率は10.17%
- 第十一回第十一種優先株式を普通株式等Tier1に含むベース*1では10.40%
- 完全施行ベース*2での普通株式等Tier1比率(第十一回第十一種優先株式含む)は10.82%

*1: 第十一回第十一種優先株式(2015年3月末残高2,131億円、2015年9月末残高1,440億円、2016年7月1日一斉取得)を含む当社試算

*2: 2019年3月末の完全施行時基準、調整項目を全額控除した当社試算

<レバレッジ比率>

- 2015年9月末のレバレッジ比率は3.89%

2015年度計画

連結

| (億円) | 2015年度 | | |
|-----------------------|--------|-------|------|
| | 当初計画比 | 計画 | 前年度比 |
| 連結業務純益 ^{*1} | ±0 | 9,600 | +830 |
| 与信関係費用 | ±0 | △600 | △553 |
| 株式等関係損益 | ±0 | 750 | △569 |
| 経常利益 | ±0 | 9,800 | △308 |
| 連結当期純利益 ^{*2} | ±0 | 6,300 | +180 |

*1: 連結粗利益－経費(除く臨時処理分)＋持分法による投資損益等連結調整

*2: 親会社株主に帰属する当期純利益

■ 連結当期純利益の業績予想は当初計画
6,300億円を据え置き

■ 中間配当は当初予想通り実施

■ 年度の配当予想は変更なし

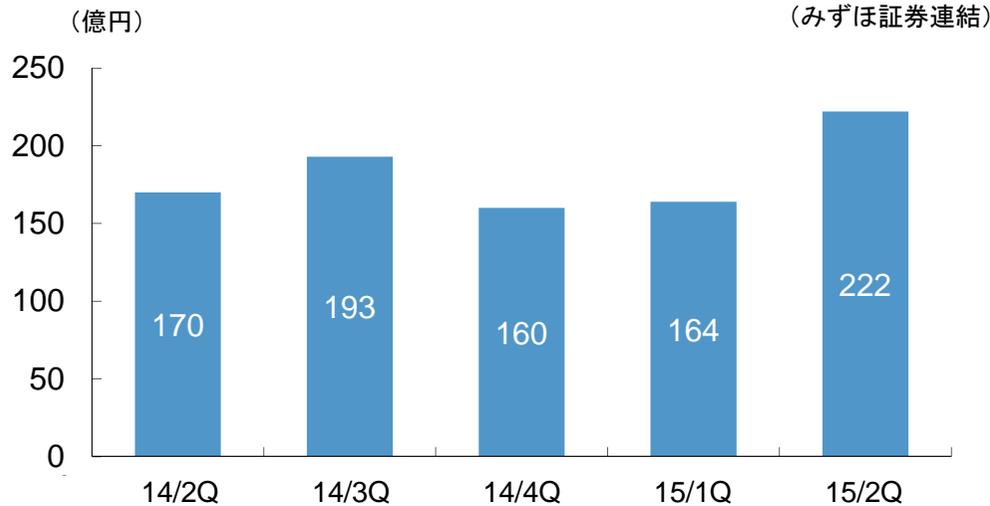
銀・信

| (億円) | 2015年度 | | |
|---------|--------|-------|------|
| | 当初計画比 | 計画 | 前年度比 |
| 実質業務純益 | ±0 | 8,100 | +886 |
| 与信関係費用 | ±0 | △500 | △421 |
| 株式等関係損益 | ±0 | 750 | △211 |
| 経常利益 | ±0 | 7,900 | +355 |
| 当期純利益 | ±0 | 5,350 | +545 |

普通株式1株当たり配当

| | |
|-----------|-------|
| 年間配当金(予想) | 7円50銭 |
| 中間配当 | 3円75銭 |
| 期末配当(予想) | 3円75銭 |

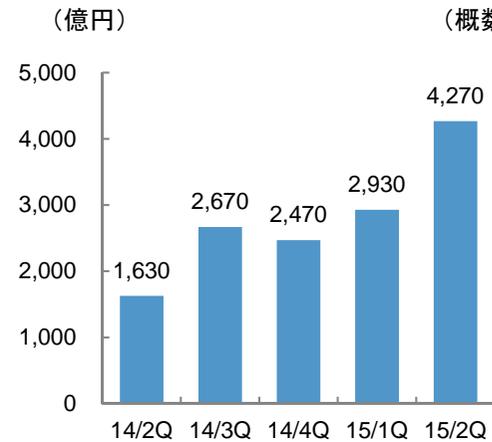
連結四半期純利益^{*1}



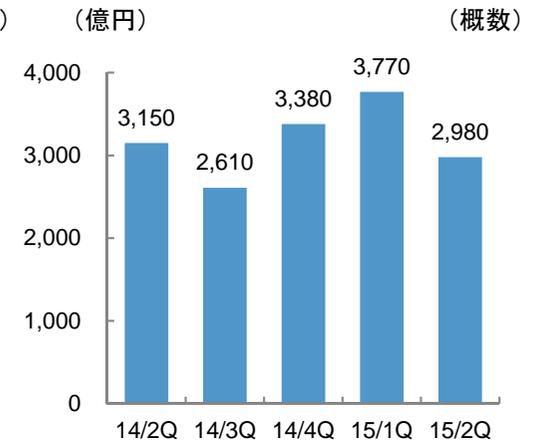
*1: 親会社株主に帰属する四半期純利益

リテール関連実績

資産導入額(リテール)



公募株式投信販売額(リテール)



純営業収益の状況

(億円) (みずほ証券連結)

| | 14/上 | 15/上 | 増減 |
|-----------|-------|-------|-------|
| 純営業収益 | 1,761 | 2,119 | + 357 |
| 受入手数料 | 1,010 | 1,249 | + 239 |
| トレーディング損益 | 520 | 617 | + 96 |
| 営業有価証券等損益 | 103 | 140 | + 36 |
| 金融収支 | 126 | 111 | △ 15 |

主要リーグテーブル (2015/4-2015/9)

| | 順位 | |
|-------------------------|----|-----------|
| M&A公表案件 ^{*2} | 2位 | 件数 72件 |
| 国内エクイティ総合 ^{*3} | 4位 | シェア 14.5% |
| 国内公募債総合 ^{*4} | 3位 | シェア 17.3% |
| 総合ABS主幹事 ^{*5} | 1位 | シェア 26.8% |

*2: 件数ベース、日本企業関連、不動産案件除く 出所: トムソン・ロイターのデータを基に作成

*3: 引受金額ベース、条件決定日ベース 新規公開株式、既公開株式、転換社債型新株予約権付社債の合算 (REIT含む)
出所: アイ・エヌ情報センターのデータを基に作成

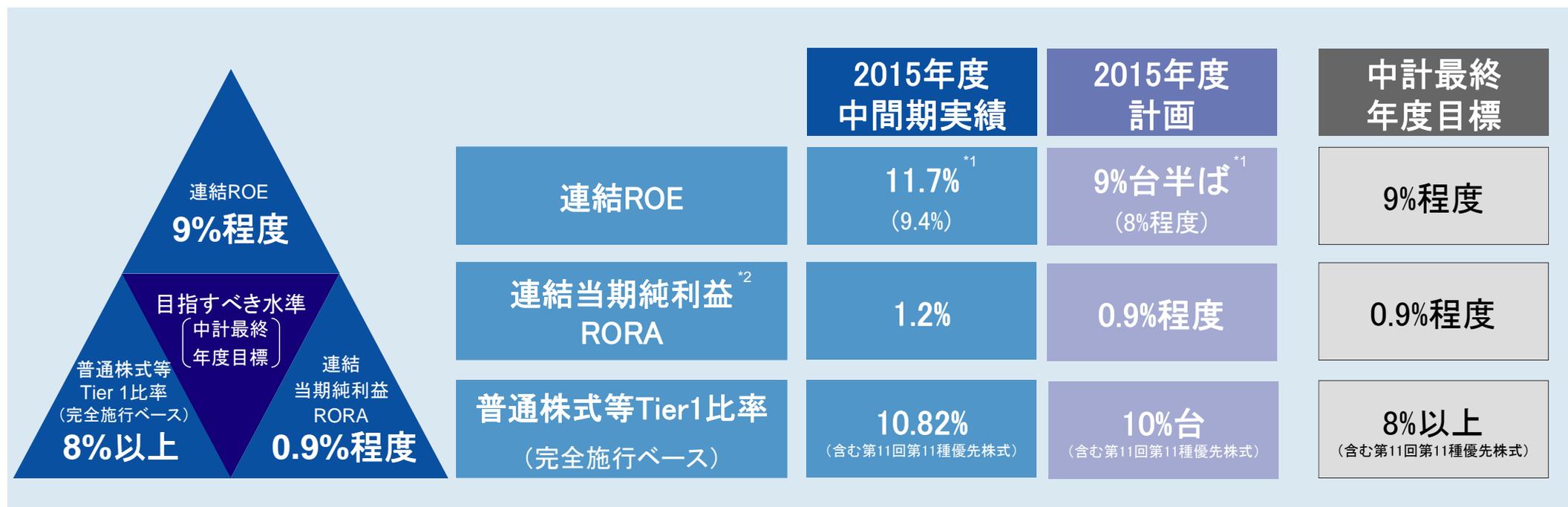
*4: 引受金額ベース、条件決定日ベース 普通社債、投資法人債、財投機関債、地方債(主幹事方式)、サムライ債、優先出資証券の合算 出所: アイ・エヌ情報センターのデータを基に作成

*5: 取引金額ベース、払込日ベース 出所: トムソン・ロイターのデータを基に作成

(参考) 中期計画の進捗状況 (1)

連結

銀・信・証



| | | | | |
|-----|----------------------------|-------------------------|---------|------------|
| 収益性 | 連結当期純利益 ^{*2} | 3,841億円 (年度計画進捗率60%) | 6,300億円 | 5,500億円レベル |
| 効率性 | グループ経費率 ^{*3} | 58.7% | 50%台半ば | 50%台半ば |
| | 経費率(銀行部門) ^{*4} | 55.4% | 50%台前半 | 50%台前半 |
| 健全性 | 政策保有株式/Tier1 ^{*5} | 23.9% | 25%以下 | 25%程度 |

*1: その他有価証券評価差額金を除くベース、()内は同含むベース *2: 親会社株主に帰属する当期純利益 *3: 銀・信・証合算 *4: 2行合算

*5: バーゼル3移行措置ベース、第11回第11種優先株式を普通株式等Tier1に含む、ヘッジ効果勘案後

(参考) 中期計画の進捗状況(2)

銀・信・証

顧客部門収益

中期計画 2015年度までの3年間で2,000億円の増加を目指す^{*1}

(管理会計、概数)

(2012年度対比) +2,790億円
【2013年4月～2015年9月(累計)】

(億円)

| | 金利収支 | 非金利収支 |
|-----------|--------------|----------------|
| 国内部門 | 0 | + 990 |
| 海外部門 | + 650 | + 1,150 |
| 合計 | + 650 | + 2,140 |

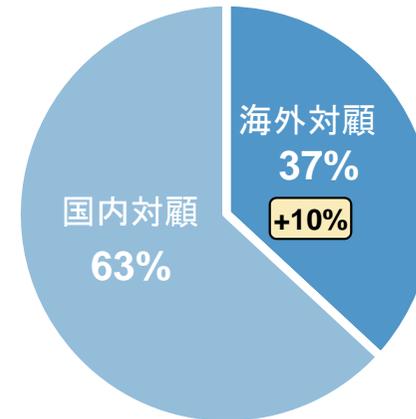
*1: 為替影響を含む

海外対顧収益比率

中期計画 2015年度に33%程度を目指す

(管理会計、業務純益)

内は12年度上期比

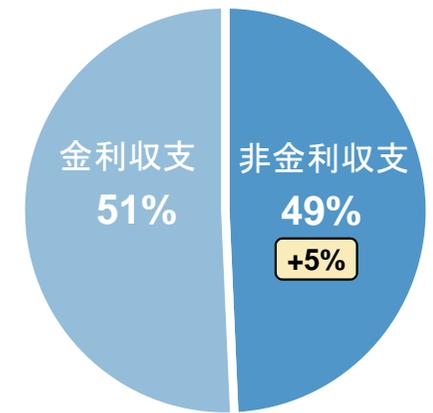


顧客部門非金利収支比率

中期計画 2015年度に50%程度を目指す

(管理会計、業務粗利益)

内は12年度上期比



(参考) 業務純益(銀・信・証合算)

(管理会計、概数)

(億円)

| | 2015年度 中間期 | 前年同期比 |
|-----------------------|---------------|--------------|
| 業務粗利益 | 10,080 | + 600 |
| 顧客部門 | 8,000 | + 650 |
| 市場部門等 | 2,080 | △ 50 |
| 経費 (除く臨時処理分) | △ 5,920 | △ 260 |
| 業務純益 (銀・信・証合算) | 4,160 | + 340 |

(参考)政策保有株式への対応

政策保有株式の保有方針

基本方針

- 保有の意義が認められる場合を除き、保有しない

保有意義の検証

- 中核子会社(みずほ銀行・みずほ信託銀行・みずほ証券)において、個別銘柄の保有意義を検証

<保有意義検証に使用する採算性基準>

取引先の総合採算^{*1}とリスクキャピタル^{*2}を比較したものが、ROE計画^{*3}に基づいて設定したハードルレート(資本コスト+ α)を上回っているか

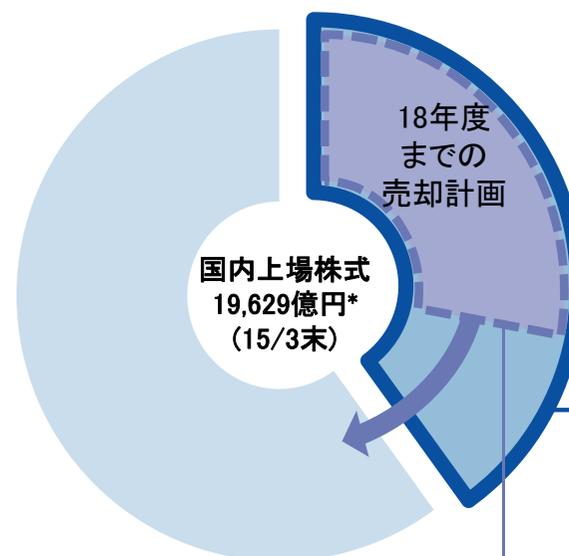
*1: 信用コスト、経費、ファンディングコスト等控除後

*2: 信用リスクと株価変動リスク等の合算

*3: 2015年度ROE計画(その他有価証券評価差額金を含むベース):8%程度

保有意義検証結果および売却計画

採算性基準達成に必要な株式削減額は全体の約4割



*取得原価ベース

削減必要額のうち、少なくとも約7割を2018年度までに売却

極力前倒しで取引先との対話・交渉を実施し、2016年度中に売却計画額の4~5割を削減することを目指す

本資料には、事業戦略及び数値目標等の将来の見通しに関する記述が含まれております。こうした記述は、本資料の作成時点において入手可能な情報並びに事業戦略及び数値目標等の将来の見通しに影響を与える不確実な要因に係る本資料の作成時点における仮定(本資料記載の前提条件を含む。)を前提としており、かかる記述及び仮定は将来実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。

また、事業戦略及び数値目標等の将来の見通しに関する事項はその時点での当社の認識を反映しており、一定のリスクや不確実性等が含まれております。これらのリスクや不確実性の原因としては、与信関係費用の増加、株価下落、金利の変動、外国為替相場の変動、保有資産の市場流動性低下、退職給付債務等の変動、繰延税金資産の減少、ヘッジ目的等の金融取引に係る財務上の影響、自己資本比率の低下、格付の引き下げ、風説・風評の発生、法令違反、事務・システムリスク、日本及び海外における経済状況の悪化、規制環境の変化その他様々な要因が挙げられます。これらの要因により、将来の見通しと実際の結果は必ずしも一致するものではありません。

当社の財政状態及び経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、決算短信、有価証券報告書、統合報告書(ディスクロージャー誌)等の本邦開示書類や当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F年次報告書等の米国開示書類等、当社が公表いたしました各種資料のうち最新のものを参照ください。

当社は、東京証券取引所の定める有価証券上場規程等により義務付けられている場合を除き、新たな情報や事象の発生その他理由の如何を問わず、事業戦略及び数値目標等の将来の見通しを常に更新又は改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

本資料は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。